

●「くまもとアートポリス」にまつわるエピソード、計画地周辺の話題などを、くまもとアートポリスニュース誌上で取り上げていきます。ご意見、ご感想をお寄せください。

くまもとアートポリス'92に向けて
世界の建築博、都市博めぐり-----3

ニーム市の街づくり フランス



町の中心部にあるコロッセウム。白いドームが架けられているのが見える。

写真提供 ニーム市



オペラ劇場/ジャン=ミシェル・ヴィルモット設計



市営住宅/ジャン・ヌーヴェル設計 写真提供 ニーム市

12

ニーム市はフランス南部の町。人口13万、マルセイユから西に列車で2時間ほどいく。中心部には古代ローマ時代のコロッセウム（円形劇場）、メゾン・カレ（古代神殿）などを今に伝えるなど、2000年の歴史を持つことで有名な町だ。

ところが来年、この町の古代神殿の向かいにハイテクな装いの建築がオープンしようとしている。英国人建築家、ノーマン・フォスター設計のメディアテックだ。地中海文化の過去と未来を収蔵し、育成していくための施設で、現代美術館や創作アトリエが完備し、従来型の図書館、レコード、CD、レーザーディスク、ビデオなどを収蔵する予定だ。

このような新旧建築を対比する手法は円形劇場にも採用されている。フランス通ならご存じの闘牛やデヴィスカップなどのテニス・トーナメントを初めさまざまなイベントが現在も行なわれている。ニームはまさに「生きた遺跡」なのである。市の中心部にあり、文化的なイベントにも利用したいということで、レンズ型の空気膜構造の屋根が架けられた。もちろん町の文化遺産としてである。この屋根はあくまでも仮設建造物。毎冬、トレーラーで運ばれた鉄骨の

柱やテントがトレーラーで運ばれ、3週間ほどで組み立てられる。

ニコラ・ミシュランとフィン・ゲイベルの仏独共同設計者によるこの大胆な計画は慎重に検討され、提案から実現まで5年の歳月を費やした。結局、軽量の空気膜とそれを取り巻くリングによって遺産を傷つけない施工方法が採用されたのだが、新旧の対比が見せる建築美は、ニーム市民の誇りとなっている。

これらのプロジェクトよりも前の1984年、市営集合住宅プロジェクト(NEMAUSUS1)が完成した。従来の住宅のイメージとはまったく異なる、工場のような建築の外観。垂鉛メッキされた金属メッシュの張り出したひさしやバルコニー、コンクリートの打放しといった外観に市民は驚いた。しかし、この集合住宅の中に住んだ人々の反応はちょっと意外だった。従来の公共住宅と同じコストで作られているにもかかわらず、35%も室内空間が広く、ニームの生活に適してテラスもかなりゆったり取られているなど、使い方次第で集合住宅にありがちな画一的なライフスタイルを越えることができるんじゃないかと、積極的に評価したのである。

まちづくりを通じた国際交流は今、ますます盛んになってきています。このページでは、世界中の都市で開催される「まちづくり」にかかわるさまざまな展覧会、博覧会をレポートします。

写真提供 ヴィルモット・ジャポン

- くまもとアートポリス参加建築家に聞く 古墳の森資料館安藤忠雄氏
- ドキュメント---湯の香橋「湯の町」に根付く
- 竣工プロジェクト紹介---球磨工業高校伝統建築実習棟/再春館レディースレジデンス/熊本市営新地団地A



1

K・A・P

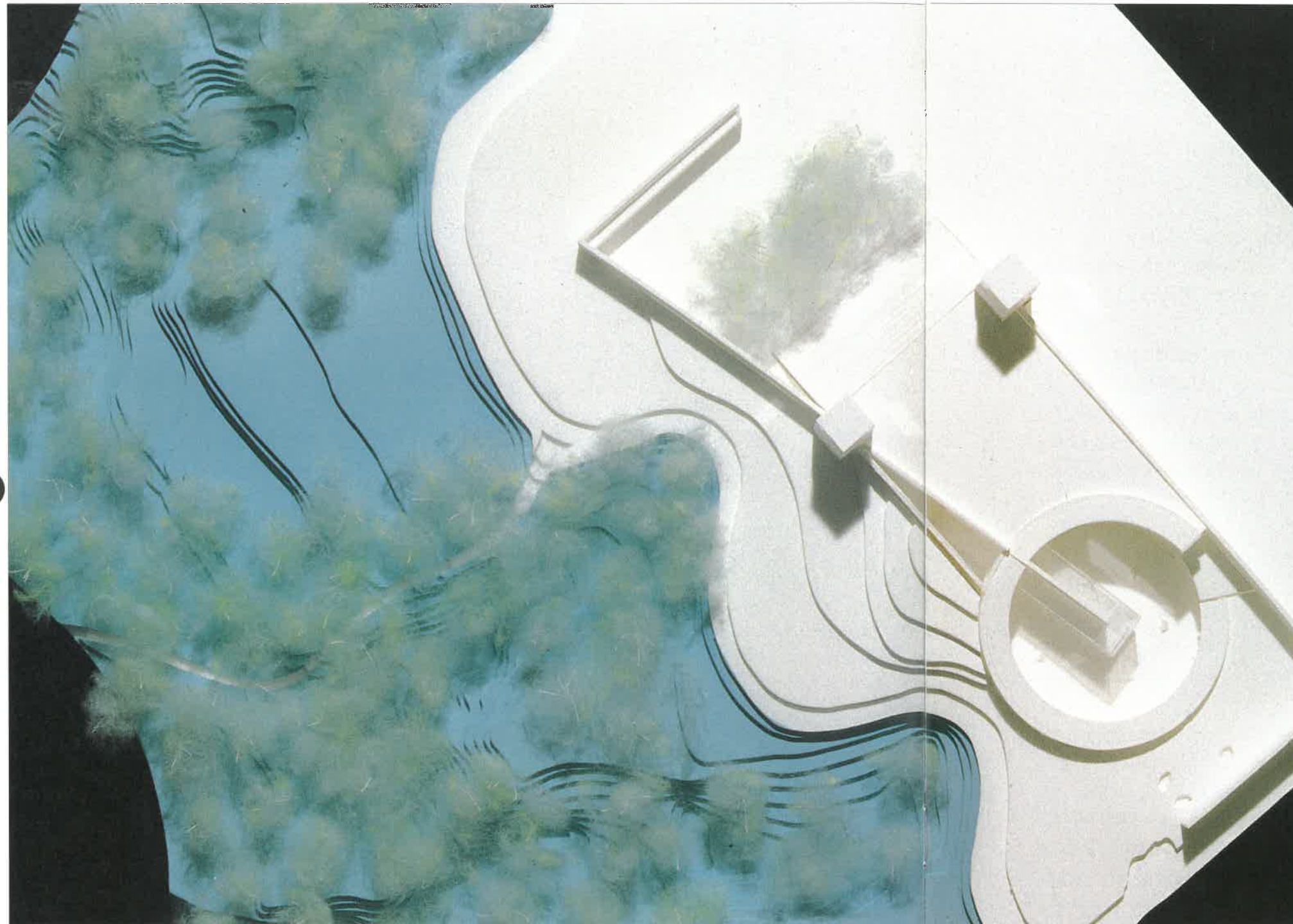
9110

●発行くまもとアートポリス事務局
熊本県土木建築課内 熊本市水前寺6-18-1
tel. 096-383-1111 (内線6220/6221)
fax. 096-384-9820
●編集くまもとアートポリスコミッショナー事務局
東京都渋谷区渋谷2-5-7 本間ビル
建築・都市ワークショップ内
tel. 03-3407-4753, fax. 03-3407-8753

再春館レディースレジデンス 設計 妹島和世

07

古墳の森資料館 設計者 安藤忠雄氏



写真提供 安藤忠雄建築研究所



○安藤忠雄プロフィール
 1941年大阪に生まれる／1969年大阪に事務所開設／
 「住吉の長屋」で日本建築学会賞受賞／「六甲の教会」で1986年度毎日芸術賞受賞／1989年フランス建築アカデミー大賞受賞

●建物へのアプローチは歴史との対話でもある

この建物を説明するには、この建物に入るまでのアプローチを来館者の動きに沿ってお話するのがいいでしょう。

まず来館者は古墳がたつ丘のふもとで車を降ります。塔状のゲートを通り、竹林の中をゆっくりと登る園路を歩いてきます。すると突然、目の前にコンクリートの壁が現れるんですね。壁を回り込むと中庭に出ます。正面には広い大きな外部階段があり、そこを登ると屋上に導かれる。さらに、正面に進み、円形のスロープで下に降りてくる。そのスロープを降りながら、この建物の敷地の向こうにこんもりと草の生い茂った前方後円墳を臨むこととなります。そして、スロープを降り切った所に発掘された遺跡の様子が見えます。

この少々遠いと思われるようなアプローチを通る間に、遺跡がどんなところかというふうに築かれていたのかということ、歩きながら身をもって体験していただくわけです。

「こういうところに私たちの先祖が、古墳をつくったのか」とね。

他の建築家なら来館者に対してもう少し親切なアプローチなりを作ったかも知れない。でも、私は遠くからこの古墳とその周囲の環境を見にやってくる人達には、このくらいの思い切りがないと意味がないと考えたわけです。これは自分のスタイルかも知れませんが……。雨の日は少しづらいかも知れないけれども、そうした体験が大切です。

さて、この建築の基壇に登ってから、螺旋状に降りてくるという来館者のアプローチは、実際の古墳の上に登ってから古墳の中に降りていくイメージなんです。展示室の中は真っ暗になっている。闇に入るわけです。これは古墳の中に入った状態をイメージしています。

このような建物への長いアプローチは、つまり歴史と対話するためのものです。日本人が持っていた巨大な古墳、つまり建造物を作った技術や生活や知恵に対する思いを抱きながら建物に入って欲しいと考えたんです。

●環境をデザインした

これは言い換えると、資料を見せる機能と同時に環境をデザインしたことになるわけです。単純に遺跡、資料や遺物を展示する箱をデザインしたわけではない。古墳の中の資料は専門家でないかぎり、なかなか理解しがたいものです。春夏秋冬、周囲の学校の子供達とか、住民の方々が散歩がてらに立ち寄るのもいいし、花見に来るとか、いろいろなかたちでこの環境を楽しんでくれればいいと思うのです。

ところで、階段を上った屋上に作られた大きな広場の上には発掘された遺物のデフォルメされた石人を置くことになっています。夏にはこの外部空間を使って自然に恵まれた環境を背景に、野外演劇を行なうのもいいかも知れない。そのときは階段を観覧席として下を舞台にするのもいいでしょう。

資料館という箱だけをつくるのではなく、環境全体を作る意気込みでこの建築に

関わっています。この敷地は町から少し離れていますから、逆に言えば俗世を断ち切って歴史に向かい合うような場を設定できるわけです。そのために周囲には竹をふんだんに植えました。

たぶん、かつての古墳時代も周囲は鬱蒼とした緑で、訪れた者たちの前に忽然と墳墓が現われたんでしょうね。これは熊本の、それもこの場所にしか存在しえない博物館のあり方でしょうね。

●建設の進む古墳の森資料館



アプローチの階段を登りきると建物が現われる



スロープより古墳を望む

●環境を刺激する建築

私はここで環境に埋没するのではなく環境と刺激的に対話する建築を考えました。いままでの建築のあり方は環境に埋没するか、環境を破壊するかのどちらかでした。環境を建築が刺激することによって人間と自然が対話する場を作ることになるし、それによって建築を人工と自然が対話するというような存在としたいのです。

この施設に来た人は、まず車を降りた所にあるシンボリックな塔状のゲートを通ります。実はここはトイレなんです、ここから資料館に行くまでは豊かな自然が配されています。ゲートから本館へといきなり接続するのではなくて、自然が建築を分断しています。

このところ私の他の仕事、例えば兵庫県立こどもの館や姫路文学館など、自然の中に建築を作る機会が増えてきました。そこではいつも環境の中に埋没してしまわず、しかし環境は破壊しない、そして自然環境に刺激的な対話を求めています。この点で住吉の長屋という小さな住宅を1975年に手掛けた時と考え方は変わっていません。この住宅も町屋の家並みの中に埋没せずに刺激し合いながら対話していると思うんですね。私の建築の作り方は15年間それほど変わっているわけではないんです。

●古墳の森資料館---対の形式

古墳は強い形式を持っています。なにも手掛かりのないところでは、建築自体で形を作っていかなければならない。しかし、ここでは逃れようのない古墳という存在が初めにありました。それとどのように対峙するかが建築のテーマになりました。これは建築の形式を考える上ではエキサイティングでした。環境全体を建築化するというのは世界でも珍しいでしょうね。結果として、古い古墳と建築が対をなしたランドスケープが形作られました。

考えてみると、私の建築には、対のパターンがとられることが多いですね。これは住吉の長屋から兵庫県立こどもの館、姫路文学館でも踏襲されています。

その姫路文学館では池を挟んで古い住宅がありました。はじめ壊すことになっていたけれども残してもらった。古い建物と新しい建築が、池を鏡面にして反射し合う。シンメトリーでありながら、シンメトリーではない。単純な中に複雑な空間構成を孕ませることができたんです。

また、私の手掛けた建築の中では、その時対になっていなくても、その後増築されてやはり対になっていったものもたくさんあります。そのような長い時間を掛けて、建築のストーリーを作るのも大事なことなんです。

今回の建築も古い古墳と対なのです。古墳と同様、20世紀の末につくられた建築として語り継がれるようなものになってほしいと思います。

建築名 熊本県立古墳の森資料館
所在地 熊本県鹿本郡鹿本町岩原3,085
主要用途 資料館
事業主体 熊本県
設計者 安藤忠雄
構造設計 アスコラル構造研究所
設備設計 設備技研
施工 建築/西松建設、本山建設、工事共同企業体
敷地面積 6,338.00m²
建築面積 1,448.83m²
延床面積 2,098.98m²
構造 鉄骨鉄筋コンクリート
規模 地下1階/地上1階
設計期間 1989年12月~1990年6月
工事期間 1990年10月~1991年12月



写真提供 安藤忠雄建築研究所

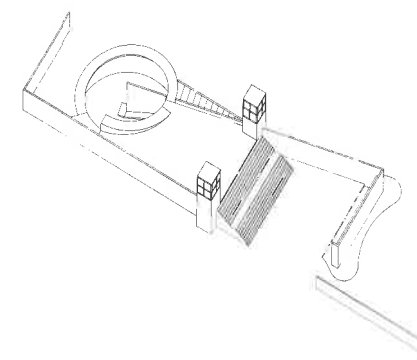
広い屋上と螺旋のスロープが特徴的である

●建築に魂を入れるのは使う人によって

これからは建築家は社会的なストックとして建築を造っていかなくてはならないでしょうね。ちょっと前のバブルの時代に比べて仕事の量は減っているとしても、仕事をひとつひとつじっくりと作っていくことができるということでこれはいい時代かも知れません。

くまもとアートポリスは大きく考えて、建築を物として見ることから、文化として見るきっかけをつくったんですね。若い建築家も多いし、私も真剣に立ち向かう相手があるので、参加できて良かったと思っています。

最後になりましたが建物ができたらおしまいというのではいけない。建物に魂を入れ込むのは使い手なんです。使い手がどのように建築を使っていくかこれが本当に重要なことです。(談)



●アートポリス竣工プロジェクト

球磨工業高校
伝統建築コース
加工組立室棟

設計 象設計集団

所在地 人吉市城本町800
 主要用途 学校校舎実習棟
 事業主体 熊本県
 施工 建築/岩井工務店 電気/人吉電気工事 衛生/金剛設備工業
 面積 敷地面積/70,100m² 建築面積/578m² 延床面積 580m²
 構造規模 木造 地上2階
 主な仕上げ 壁羽目下見板張り
 工事期間 1990年10月~1991年3月

※見学には事前の連絡が必要です。
 問い合わせ先:
 球磨工業高校まで
 電話 (0966)22-4189



●アートポリス竣工プロジェクト

熊本市営新地団地A

設計 早川邦彦

所在地 熊本市清水町新地1917-58他
 主要用途 集合住宅
 事業主体 熊本市
 面積 敷地面積/45,306m² (2期工事を含む)
 建築面積/7,134m² 延床面積/23,047m²
 竣工 1991年5月
 施工 建築/増永組・水上建設・川上建設・小田建設・パチオ・ワクタ建設工事共同企業体、九嶺建設 電気/太陽電気・福田防災工業・鶴電氣建設工事共同企業体、熊本電研 衛生/たしろ住設工業・長神設備・公栄設備工業・平

和設備・肥後設備・西部ガス工事共同企業体 外構/平井宮築園、熊本造園
 構造規模 鉄筋コンクリート造 地下1階、地上5階
 主な仕上げ コンクリート打放しリシン吹付け



6

●アートポリス竣工プロジェクト

再春館
レディースレジデンス

設計 妹島和世

所在地 熊本県帯山市4丁目323
 主要用途 社員寮
 事業主体 株式会社再春館製菓所
 施工 岩永組
 面積 敷地面積/1,223m² 建築面積/851m² 延床面積/1,254m²
 構造規模 鉄筋コンクリート造+鉄骨造 地上2階
 主な外部仕上 外壁/アルミパネルほか
 工事期間 1990年11月~1991年7月

※見学には事前の連絡が必要です。
 問い合わせ先:
 (株)再春館製菓所 総務課まで
 電話 (096) 383-4444



7



▼見学案内
 電鉄バス(交通センター発)
 「新地団地行き」→「新地団地」下車
 終点330円、約40分

07

湯の香橋

設計 岸和郎

岸和郎氏の設計になる湯の香橋が完成した。40メートルの長さを持つ人の歩行のためだけに作られた橋である。

もともと架け替えられる前にはこの温泉街のシンボルとして赤い木造の太鼓橋が架かっていたのだが、橋脚の老朽にともない新しく作り直されることになったのだ。架け替えに際しては当初、真っ赤な太鼓橋とその傍らに立つ柳という情緒ある景観を懐かしむ町民の方々の意見もかなりあったそうだ。しかし、設計者からの新しい橋の設計主旨である「自然を身近に感じることのできる橋」という内容の説明に徐々に共鳴される方が増えていったという。

その意図されたものを最もよく表している「水面まで降りられるテラス」は訪れたときには満ち潮にあたり、水面の下にぼんやりと窺われたただけだったが、その代わりに豊かな流れに鮎を求めて投網する姿が見受けられた。その傍らを通り過ぎる温泉街の宿泊客とのあいだに釣り談義が交わされていた。夜の演出のために施された照明が半透明の手摺りを照らし、その姿が水面に揺れている。闇にぼっかりと浮かぶこの橋には人も魚も吸い寄せられるように集まってくるようだ。また、地元の方の話によれば、川面まで降りることのできるテラスは散歩の休憩所として、子供たちにとっては格好の遊び場として親しまれているという。その状況を鑑みて町ではこの橋一帯の川床を新たに浅瀬にしたのだという。一つの橋が単に人の通過を果たすに留まらず、川との触れ合いや、地元の人と温泉街を訪れる人々との束の間の憩いの場としてあることに感慨をうけた。

規模や用途からして、この橋が及ぼす周囲への影響はささやかなものかもしれないが、ゆらゆらと川面に浮かぶまるで精霊流しのような風情は静かだけれども、訪れた人々の中にしっかりと記憶されていくに違いない。

(新納至門／建築家・熊本市在住)



湯の香まつりで繰り広げられた手作りボートレース



湯の香橋から投網する



所在地 豊北郡芦北町湯浦
主要用途 遊歩橋
事業主体 芦北町
施工 建築/日本ビー・エス・コンクリート 電気/平田電気
構造規模 プレストレスト・コンクリート造 橋長/40.8m 幅員/3.34m
主な仕上げ 手摺り/鉄骨+ポリカーボネート樹脂板フロスト加工 床/RC洗出し、両サイドはグレーチング
工事期間 1990年12月～1991年5月

湯の香橋の設計に際してまず頭に浮かんだのは橋の持つ歴史、あるいは日本文化の中で橋の持つ意味といったことだった。橋は芝居町や遊里といった「悪所」へ人を導くものであったり、現世と彼岸とを繋ぐ場所だった。したがって橋はいろいろな伝説や説話の舞台になっており、そんな物語を生み出すような蠱惑(こわく)的な空間だったのだ。

ところが現代の橋は構造・工法の異なる何種類かの標準設計の中から適合するものを選び、それに寸法を与えれば設計から工事費まで自動的に決まってしまうという、さながらメニュー方式とでも呼べるようなやり方で作られているとのこと。橋の設計が経済合理性に基づいて決定されていることにあらためて驚いた。考えてみれば護岸は次々にコンクリートで塗り込められ、さらには暗渠化されていく河川など、河はますます我々の生活から遠いものとなってきている。

したがって、この湯の香橋では新しい物語が生まれるような橋、人間に親しく渡ることが純粋に楽しみであるような橋を設計したいというのが最初の想いだった。水辺に降りていけるテラス、照明計画、人間にやさしい手摺りのディテールなどの今回の設計のポイントはそんな想いを現実化したものである。

橋が出来上がった現在、町民のさまざまな反応に正直なところ、びっくりしている。7月の末には町民の発案でこの橋をゴールとする手作りボートレースが開催されたし、また近所の人たちが交替で橋の掃除当番を努めてくださっていることも聞いている。そんな予想もしなかった反応がかえってくるのもこの橋が地元の人たちに快く受け入れられたからだろうし、設計者としても楽しくその経過を見守っているところである。



岸和郎(きし・わろう)プロフィール
1950年神奈川生まれ/1978年京都大学大学院修了/黒川雅之建築設計事務所入所/1981年岸和郎建築設計事務所設立/現在、京都芸術短期大学助教授/主な作品に京都芸術短期大学高原校舎がある。

●参加プロジェクト・リスト

プロジェクト名	設計者名	作業過程	完成予定
熊本北警察署	篠原一男+太宏設計事務所	竣工	
県営保田窪第一団地	山本理顕	外構工事中	1991.12
加久藤トンネル換気所	小山明+パシフィックコンサルタンツ	竣工	
三角港フェリーターミナル	葉祥栄	竣工	
八代市立博物館・未来の森ミュージアム	伊東豊雄	竣工	
熊本市花畑パークトイレ	大塚豊一	竣工	
熊本市上江津湖畔トイレ	日田兆	竣工	
熊本市営新地団地A	早川邦彦	竣工	
熊本市営新地団地B	緒方理一郎	工事中	1992.3
熊本市営新地団地C	富永譲	実施設計中	
熊本市営新地団地D	西岡弘	実施設計中	
熊本市営新地団地E	上田憲二郎	実施設計中	
県道橋景観整備（基礎調査）	倉俣史朗+高木富士川計画事務所	計画完了	
熊本市営託麻団地	坂本一成+長谷川逸子+松永安光	工事中	
山鹿市光のまちづくり計画	岩崎敬+瀬口英徳	構想完了	
牛深港架橋	レンゾ・ビアンチ+ピーター・ライス+岡部憲明+前田設計	工事中	1996
県営帯山A団地（公開コンペ）	新納至門	工事中	1992.3
玉名市文化施設（基本構想）	豊田文生	構想完了	
湯の香橋	岸和郎	竣工	
清和村文楽館	石井和紘	工事中	1992.3
古墳の森資料館	安藤忠雄	工事中	1992.3
球磨工業高校伝統建築実習棟	象設計集団	竣工	
鮎の瀬大橋	大野美代子+中央技術コンサルタンツ	設計中	
公園ファニチャーデザイン同整備マニュアル	沖健次+東京ランドスケープ研究所	設計中	
松島町下水処理場管理棟	斉藤宏	工事中	1992.3
石打ダム管理所	青木茂	竣工	

プロジェクト名	設計者名	作業過程	完成予定
県営新渡鹿団地	小宮山昭	工事中	1993.3
大津町第2庁舎・町民交流施設	鈴木了二	実施設計中	
玉名市ふるさと展望館	高崎正治	工事中	1992.3
大甲橋景観整備	倉俣史朗	設計完了	
草地畜産研究所牛舎	トム・ヘネガン+インガ・ダグ・フィンストッター+	実施設計中	
	桜樹会・古川建築事務所		
再春館レディースレジデンス	妹島和世	竣工	
県立美術館分館	エリアス・トレス+ホセ・アントニオ・マルティネス・ラハ'ーニャ	工事中	1992.9
	+大和設計		
湯前町まんが美術館	桂英昭	工事中	1992.3
県営竜蛇平団地	元倉真琴	実施設計中	
津奈木町物産センター	北山孝二郎	工事中	1992.3
チャペルの鐘展望公園	梅田正徳+スペースデザイン	工事中	1992.9
花の交流館	ワークショップ	実施設計中	
TOTO AQUAPIT ASO（公共トイレ）	木島安史	工事中	1992.2
パークビルII 換気塔	清水文夫	基本構想中	
白川橋景観整備	藤江和子	基本設計中	